

抗がん剤プロトコール 届け票

申請日	平成 21 年 10 月 5 日		
申請者	所属科:外科	医師名:藤田 正一郎	印
抗がん剤プロトコール内容			
略名	mFOLFOX6 + アバスチン		
適応臓器名	進行・再発大腸癌		
薬剤名	フルオロウラシル注射液(商品名:5-FU 注) レボホリナートカルシウム注射剤(I-LV)(商品名;アインボリン注) オキサリプラチン注射用(商品名:エルプラット注射用)(L-OHP) ベバシズマブ(遺伝子組換え)注(商品名:アバスチン点滴静注用)		
注意点	各薬剤の注意点を遵守すること。		
用法・用量・投与スケジュール			
2 週(14 日間)を 1 コースとして繰り返す。 day 1 1) ベバシズマブ(アバスチン注)として 5mg/kg(体重)又は 10mg/kg(体重)を注射筒で抜き取り、日局生理食塩液に添加して約 100mL にし、初回投与時は 90 分かけて点滴静注する。初回投与の認容性が良好であれば、2 回目の投与は 60 分間で行ってもよい。2 回目の投与においても認容性が良好であれば、それ以降の投与は 30 分間投与とすることができる。 2) 前投薬:5-HT ₃ 受容体拮抗型制吐剤 + デカドロン 8~20mg 3) L-OHP として 1 回 85 mg/m ² (体表面積)と I-LV として 175 mg/body または 200 mg/m ² (体表面積)を別々のバッグに入れて同時に 2 時間かけて点滴静脈内注射する。 4) その後 5-FU として 1 回 400 mg/m ² (体表面積)を 15 分以内で急速静注し、 5) 5-FU として 1 回 2400 mg/m ² (体表面積)を 46 時間かけて持続静注する。			
Evidence	NCCN ガイドライン。 2009 年版大腸癌治療ガイドライン。 臨床試験 ① 化学療法既治療の治癒切除不能進行・再発大腸癌に対する L-OHP + 5-FU/I-LV (mFOLFOX6) 療法の第 II 相臨床試験(OGSG 0505)、② 遺伝子解析による大腸がん治療薬の感受性及び副作用予測に関する臨床研究—modified FOLFOX6—。		
備考			
がん化学療法委員会承認日: 22. 1. 15			